

2017年度後期別科在籍生に対する 生活・学習実態および意識調査

Questionnaire survey on living
and learning conditions and awareness of
Japanese program students in autumn semester 2017

澤野 勝巳・高山 幸巳・田 渕 敬 光

要 旨

2017年後期在籍の別科生49名に対して、アンケートによる生活・学習実態および意識調査を実施した。計44の質問に対する回答から得られた学生たちの日本留学や別科への期待、生活実態、日本語および日本文化の学習や進路に対する意識や困難などの相関性を分析し、今後の学習指導、進路指導の方向性および学習環境の改善について考察した。

キーワード：別科生、生活・学習実態、学生の意識、カリキュラム、希望進路、主体性

1. はじめに

2017年10月現在、別科日本語専修課程、日本文化専修課程には、春期入学と秋期入学合わせて50名の履修生が在籍する。入学前の日本語学習歴や日本語力によって4つのクラスに振り分けられた学生たちはすべてアジア系だが、クラスごとに個性、特徴、問題が異なり、中には欠席、遅刻、授業への不参加などが多く見られるクラスもある。しかし、これまで、このような現象を問題だとしながらも、学生たちの生活実態、学習状況、抱えている困難とその原因などを具体的に問い、問題との関連性を考察する機会がなかった。そこで、この度、履修生全員に対するアンケート調査を実施し、明確な現状把握のもと、教育現場の改善を目指すことにした。

1-1. 調査目的

現在別科の授業を担当する教員、また事務を担当する職員が、在籍する学生達の生活実態、学習状況、学習や進路に対する意識および困難を把握、理解し、今後の学習指導、進路指導、学習環境の改善等に役立てるための共有基礎資料とすることを目的とする。

1-2. 調査の概要

本調査の対象は、2017年春入学および秋入学の日本語専修課程・日本文化専修課程を履修する学生全員である。調査方法は、留学目的、当科選択の理由、現在の学習状況、生活環境、進路の予定、当科に対する希望など、計44の質問項目をまとめたアンケート用紙（無記名）を作成し、筆者らの担当授業時間内または休み時間などに配布、回収した。なお、アンケート作成にあたっては、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が隔年で実施している「私費外国人留学生生活実態調査」の平成27年度私費外国人留学生生活実態調査アンケート用紙を参考とした¹。

調査実施時期は、2017年10月23日～26日までの4日間で、調査対象者のうち、2017年春入学および秋入学の日本語専修課程を履修する学生7名と日本文化専修課程を履修する学生42名、計49名から有効回答を得た²。

2. 調査結果の概要

調査の結果は表1（P.5）のとおりである³。ここでは、本調査の集計結果を整理する。本調査における各設問の分類としては、Q1～Q10は概ね学生の基本情報および別科入学以前の動向についての設問である。Q11～Q18は、概ね学生の学習環境や素地を問うている。そして、Q19～Q25およびQ34では、学生の生活面の実態に関するものである。Q26～Q33では、学習面に関する設問である。Q35～Q40は、学生の進路に関する設問となっている。最後にQ41～Q44では、「授業に対する希望」、「授業環境に対する希望」、「進路指導に対する希望」、「その他」について自由に記述させた⁴。

2-1. 学生の基本情報および別科入学以前の動向

各設問の集計結果をみると、Q1は学生の性別を問うたものであり、男性34名、女性15名となっている。次に学生の国籍を見ると、中国が24名と最も多く、次いでベトナム19名、その他の国が6名という構成である。Q3では、留学先として日本を選んだ理由について問うた（複数回答可）。その結果、日本語を勉強したかったとする回答と、日本文化や日本社会に興味があって、日本で生活したかったためとする回答が25ずつで最も多かった。Q4の最終学歴では、高卒者が17名と最も多い。Q5では、日本での滞在期間を問うているが、1年～2年未満、2年～3年未満とする回答が21名ずつであ

1 http://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/h27.html

2 日本文化専修課程を履修する学生1名が調査実施期間中欠席で回答なし。

3 各設問の選択肢に関しては付録資料のアンケート用紙を参照されたい。

4 回答には個人を特定できる記述があったため、本稿では扱わない。

り最も多かった。Q6の別科に直接入学したかどうかの問いでは、いいえと回答した学生が33名と最も多かった。Q7では、Q6でいいえと答えた学生に対して別科入学前に何をしてきたかを問うている。最も多かったのがやはり日本語学校とする回答(30名)であった。Q8はQ6でいいえと答えた学生に対して別科を知ったきっかけについて問うた。その結果、学校の先生から情報を得たとする学生が16名と最も多かった。Q9では、数ある進路の中でなぜ別科を選んだのかについての設問である(複数回答可)。最も多かったのが、授業の内容がよさそうだから(回答数22)であった。Q10は学生が現在までどれくらいの期間日本語を学習してきたのかについての問いであり、2年～2年6か月未満とする回答が圧倒的に多く24名であった。

2-2. 学生の学習環境・素地

Q11は別科のコースの別であるが、日本文化専修課程が42名と86%を占めている。Q12では学生が日本語能力試験(JLPT)のレベルを問うているが、最も多かったのが資格なし、つまりどの級も合格していない学生であった(16名)。Q13では今後、進学や就職をするうえでJLPTが必要となるかを聞いており、必要と答えた学生が42名であった。また、Q14で日本留学試験(EJU)の受験歴を問うたが、受験したことがないとする回答が37名と非常に多かった。次に、Q15でEJU受験経験者に対してEJUの日本語科目の得点を聞いているが151～200点とする学生が9名と最も多かった。JLPTと同様にEJUの必要性に関してもQ16で聞いているが、必要ないとする学生のほうが多く32名であった。また、Q17およびQ18で自宅等での学習時間(1週間)を問うた。日本語の学習時間は7～14時間未満とする回答が最も多く19名いたのに対して、日本語以外の学習時間は7時間未満と答えた学生が30名もいたことがわかった。

2-3. 生活面の実態

Q19では、自宅から別科までの通学時間を聞いているが、30分～1時間未満と答えた学生が最も多く18名であった。Q20では現在アルバイトをしているかどうかを聞いた。その結果、アルバイトをしている学生は36名であった。Q20でアルバイトをしていると答えた学生にQ21でその内容を問うたが、工場で働く学生が最も多いことが明らかとなった(複数回答可)。彼らのアルバイトの週時間は20～25時間未満、25時間以上とする答えが14名ずつあり、最も多かった。Q23は、アルバイトをする理由についての設問(複数回答可)であるが、生活費のためとする回答が最も多く、回答数は26であった。Q24の1か月にかかる生活費に関しては、5～7万円未満と答えた学生が多い。次に、Q25で1日の平均睡眠時間を問うたが、6～7時間未満が最多(19名)であった。Q34は生活での困りごと(複数回答可)について聞いたものだが、生活の中で使う日本語がわからないとした回答が20あり、最も多い。

2-4. 学習面の実態

学生の学習面は、Q26の日本語学習における困りごと（複数回答可）で、勉強しても上手くならないが最も多く18名であった。また、Q26で授業が難しくてわからないと答えた12名の学生に対してはQ27で日本語の何が難しいのかを聞いている。そこでは、文法が難しいとする回答が6名と最も多かった。次に、Q28では、日本語がなぜ難しいのかを聞いている。ここでは、自分が予習や復習をしていないためと答えた学生が7名いた。さらに、Q26で授業がつまらないと答えた学生1名に対して、Q29、30で何がつまらないのか、なぜつまらないのかと聞いているが、それぞれ文法、その他（クラスメートがちゃんと参加しない）と答えている。一方、日本語以外の学習に関してはQ31（複数回答可）で日本語以外の科目で困っていることを聞いたが、最も多かったのが家で勉強する時間がないとする回答（16名）であった。また、日本語と同様に授業が難しくてわからないと答えた学生13名に対してQ32でなぜ難しいのかを問うたが、自分が予習や復習をしていないためであるという回答が4名で最も多かった。併せて、授業がつまらないと答えた学生6名に対して、なぜつまらないのか（Q33）を問うたが、その他が3名と最も多かった。

2-5. 進路に関する動向

次に、進路に関する動向をみてみよう。Q35で、まず、学生らの希望進路を問うた。その結果、城西大学の短期大学に進学するとしている学生が9名おり、最も多かった。次のQ36では、進路についての明確さを聞いたが、今考えているという回答が最も多く23名であった。これに加えて、Q37では進路の情報集めや準備などの進捗度を聞いた。これには32名の学生が今していると答えている。また、Q38では、情報集めや準備等をどのようにして行うつもりなのかを問うた。その結果、27名の学生が、別科の先生や事務の先生に助けをもらうという選択肢を選んでいった。最後に、Q39で進学する理由、Q40で就職する理由をそれぞれ聞いた。Q39では、卒業した後日本で就職しやすいのが多数派で、Q40では、自分の国よりいい仕事があるためとする回答が最も多かった。

以上のように集計の結果、各設問である程度の偏りが見られた。そのうち、いくつかの設問は、今後別科として解決しなければならない課題を示唆するものである。したがって、次項でこれらの設問に関する分析・考察を行い、今後別科がどのような方策を立てるべきかについて論ずることとする。

表 1 各設問の集計結果⁵

設問	選択肢																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
Q1：性別	34	15																	
Q2：国籍	24	19	6																
Q3：日本を選んだ理由	23	23	25	25	5	6	3	1	2										
Q4：最終学歴	17	4	7	7	12	2	0												
Q5：日本滞在期間	7	21	21	0															
Q6：別科に直接入学か否か	16	33																	
Q7：入学前何をしていたか	30	0	0	2	1														
Q8：別科を知ったきっかけ	2	9	16	4	2	0													
Q9：別科を選んだ理由	16	22	13	12	19	12													
Q10：日本語学習期間	2	3	7	5	24	5	3												
Q11：別科コースの別	7	42																	
Q12：JLPTの有無	5	5	15	2	6	16													
Q13：JLPTの必要性	42	7																	
Q14：EJU受験経験	12	37																	
Q15：EJU得点	0	9	1	3	0														
Q16：EJUの必要性	17	32																	
Q17：自習時間（日本語）	17	19	10	2	1	0													
Q18：自習時間（日本語以外）	30	12	3	1	3	0													
Q19：通学時間	13	18	8	7	3														
Q20：アルバイトをしているか	36	13																	
Q21：アルバイトの内容	13	7	0	16	4	0	1	3	2										
Q22：アルバイトの週時間	0	1	0	7	14	14													
Q23：アルバイトをする理由	26	14	22	18	0	1	3												
Q24：1か月の生活費	1	4	9	12	10	6	7												
Q25：睡眠時間	0	1	5	14	19	8	2												
Q26：日本語学習の困りごと	12	1	18	3	14	1	3	14	5	4	5								
Q27：何が難しい（日本語）	3	1	6	0	1	0	1	0											
Q28：なぜ難しい（日本語）	0	0	0	2	2	7	0												
Q29：何がつまらない（日本語）	0	0	1	0	0	0	0	0											
Q30：なぜつまらない（日本語）	0	0	0	0	0	0	1												
Q31：日本語以外の学習の困りごと	13	6	3	5	16	15	8	3											
Q32：なぜ難しい（日本語以外）	1	3	0	3	0	4	2												
Q33：なぜつまらない（日本語以外）	0	0	0	1	1	1	3												
Q34：生活の困りごと	12	20	5	4	8	1	12	9	10	1									
Q35：卒業後の希望進路	7	0	7	9	3	1	3	0	2	0	1	3	0	0	0	6	1	5	0
Q36：進路についての明確さ	10	23	16																
Q37：進路の準備の進捗度	15	32	2																
Q38：進路の準備をひとりでやるか	9	27	9	4	0														
Q39：日本で進学する理由	1	1	12	16	6	1	7	1											
Q40：日本で就職する理由	4	12	3	9	11	3													

5 回答数が最も多かったものは太字。

3. 調査結果の分析および考察

ここでは、調査結果をふまえて特記すべきいくつかの点について分析し、考察する。前項で述べた通り、別科にとって非常に大きな課題となり得る事項が散見される。

3-1. 最終学歴と日本語以外の科目との相関

調査項目のうち数値（レベル）を選択するタイプの設問で調査対象者全員が回答したものは、Q4（最終学歴）、Q10（日本語学習期間）、Q12（JLPTの取得級）、Q17（日本語の自習時間）、Q18（日本語以外の自習時間）、Q19（通学時間）、Q24（一か月の生活費）、Q25（睡眠時間）の8つである。これらの設問のそれぞれの相関をみるため、1つずつ目的変数を変えて重回帰分析を行った⁶。その結果、表2のようにQ8（最終学歴）を目的変数にした際にQ18（日本語以外の自習時間）との正の相関がみられた⁷。つまり、学歴が高いほど自宅での日本語以外の学習時間が増加する傾向にあるということになる。

別科における日本語以外の科目は、英語、地域学、日本経済史、政治学、日本文化等、アカデミックなものが多い。したがって、学生にもアカデミックな素養が求められる。学歴が高いということは過去に、アカデミックな教育を受けたことがあるということ

表2 重回帰分析結果

重相関係数		決定係数					
R	修正 R	R2 乗	修正 R2 乗	ダービンワトソン比	AIC		
0.401	0.132	0.161	0.018	1.418	60.565		
変 数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	F 値	t 値	P 値	判定
Q10：日本語学習期間	-0.261	0.181	-0.213	2.072	-1.439	0.158	
Q12：JLPTの有無	-0.114	0.143	-0.116	0.635	-0.797	0.430	
Q17：自習時間（日本語）	-0.137	0.268	-0.076	0.261	-0.511	0.612	
Q18：自習時間（日本語以外）	0.559	0.238	0.356	5.512	2.348	0.024	*
Q19：通学時間	0.074	0.218	0.051	0.114	0.338	0.737	
Q24：月生活費	0.074	0.171	0.067	0.186	0.431	0.669	
Q25：睡眠時間	-0.135	0.249	-0.083	0.296	-0.544	0.589	
定数項	4.071	1.964		4.299	2.073	0.044	*

Excel 統計 2010 による

6 本来は、仮説を立てたうえで行うべき分析だが、今回は仮説を立てる前に調査を行ってしまったため、各分析における仮説の記述は割愛する。

7 回帰式の精度が高いとは言えない点に注意されたい。ここで精度が高くないのは、説明変数およびサンプル数の少なさによるものと推測される。

あり、これらの科目に対しても学習方法や学習の意義をすでに理解しているはずである。逆に言えば、学歴の低い学生は、アカデミックな教育はこれが初めてとなるため、これらの科目を学習することが今後どのような場面で役立つのか、そしてどのように学習すべきかを理解できていない可能性がある。本来的な別科のあり方に立ち返ると大学等の高等教育機関への進学の前準備課程として別科は成り立っている。つまり、アカデミックな教育を受ける際に必要な日本語能力だけでなく、その教育に対する姿勢や学習方法をも指導しなければならないといえよう。したがって、今後は特にアカデミックな科目の多い日本文化専修課程を中心にその科目の意義や学習方法についてより深く明示する必要がある。

3-2. 自宅での学習時間に関して

Q31では、「5. うちで勉強をする時間がない」と回答した学生が16名で最も多く、そのうち14名が日本文化専修課程の学生であった。そこで、5と回答した日本文化専修課程の学生のみを抽出して他の設問の回答をみると、Q17（日本語の自習時間）では「1. 7時間未満」より「2. 7～14時間未満」と答えている学生のほうが若干多い。しかし、Q18（日本語以外の自習時間）では、ほとんどの学生が「1. 7時間未満」と答えているのである（表3）。この学生らの授業以外での学習時間はQ17、18ともに少ないが、日本語の学習は少ないながらもしていると見受けられるのに対して、日本語以外の学習に関してはほとんど時間を割いていないということがわかる。これは、限られた学習時間のほとんどを日本語の学習で使ってしまう、日本語以外の科目に使われる時間が無くなってしまっていることを示していると考えられる。言い換えれば、勉強をする時間のない学生らにとっての優先順位が①日本語②日本語以外となっているのである。

当科日本文化専修課程では、日本語「及び」日本文化の理解を軸にしている⁸。したがって日本語科目と日本文化に関する科目は同列であり、日本語科目だけに重きを置いているわけではない。そのため、カリキュラムポリシーとしては、日本文化に関する科

表3 Q31で5と答えた学生

選択肢	Q17 自習時間（日本語）	Q18 自習時間（日本語以外）
7時間未満	4	6
7～14時間未満	7	4
14～21時間未満	1	1
21～28時間未満	1	0
28～35時間未満	0	2
35時間以上	0	0

8 別科細則第1章第2条による。

目が疎かにされてはならないのである。しかし、実際の学生の認識は先述したとおりである。このことから、学生とカリキュラムとの乖離が生じているといえよう。また、この状況が今後続けば、日本文化専修課程の在り方が問われることに繋がりがねない。したがって、今後、議論・検討し対策を打ち出す必要があるといえよう。

3-3. 日本語学習における悩みに関して

前項では日本語以外の科目に着眼したが、日本語科目に関してはどうか。Q26は日本語学習に関する困りごとについての設問（複数回答可）であるが、選択肢の中で「1. 授業が難しくわからない」、「3. 勉強しても上手にならない」、「5. 教室以外で日本語を使う機会がない」、「8. うちで勉強する時間がない」を選択した学生が特に多かった（図1）。8に関しては学生のプライベートの問題であるため、別科としての対策やサポートを展開するのが難しい。ここでは、1、3、5について考察したい。

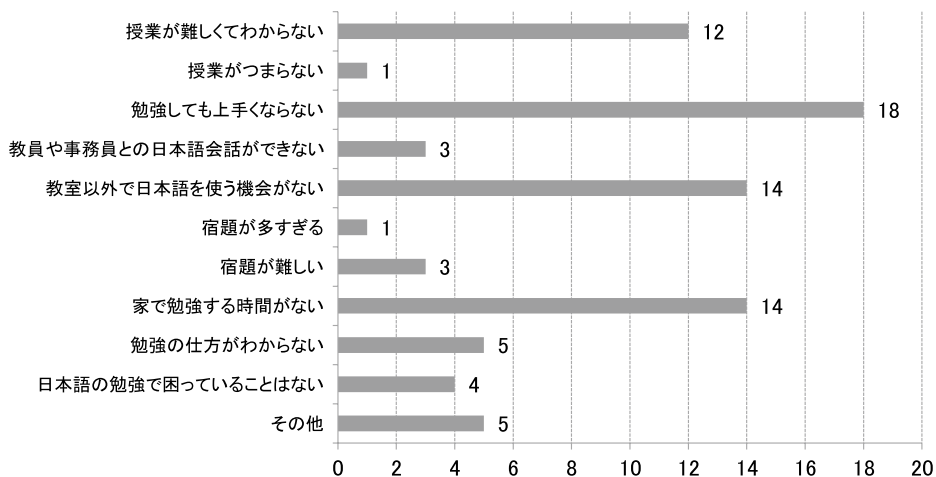


図1 Q26. 今、日本語の勉強で困っていることがありますか。（複数回答可）

3-3-1. 授業が難しくわからない

Q26で「1. 授業が難しくわからない」と答えた12名の学生を抽出してみると、1名を除き、アルバイトを週15時間以上している。しかし、日本語学習時間をみると週7時間未満の学生は1名のみで、ある程度の自習時間を確保しているようである。また、Q12のJLPTの取得級をみてみると、持っていないが6名、N5が4名、N3が3名となっており、N2、N1取得者はいない。つまり、N3以下の学生が日本語科目の授業が難しいと答えているのである。彼らをクラス別にみると、U1クラス3名、U2クラス8名、G1クラス1名である。U1クラスの学生はJLPTの級を持っていない学生が2名い

る。また、17名で編成されているU2クラスのうち約半数が難しいと答えていることから、彼らのレベルに合った日本語の授業を行うために各クラスの編成方法かカリキュラム、あるいはその両方を再検討する必要があるのではないだろうか。

3-3-2. 勉強しても上手にならない

Q26では、「3. 勉強しても上手にならない」と答えた学生は18名と最も多かった。これは授業の効果があらわれていないということであり、非常に大きな課題といえよう。また、この18名の学生を抽出して他の設問をみても特筆すべき傾向がみられないことから、当科の学生全体の課題と考えるべきであろう。

日本語学習において上手にならない学生の個人的な理由としては、一般的に勉強の方法や時間が足りない、使う機会がないといったことが考えられる。しかし、3と答えた学生のうち「1. 授業が難しくてわからない」と答えた学生は4名、「5. 教室以外で日本語を使う機会がない」は2名、「8. 勉強の仕方がわからない」は4名、「9. うちで勉強する時間がない」も4名であり、それぞれの占有率は高くない。したがって、今回の調査結果だけでは、その理由を特定するのは難しい。また、「1. 授業が難しくてわからない」から「3. 勉強しても上手にならない」とも考えられる学生が4名いることから、学生側だけの問題ではなく、教員側もこの問題の一端に関わっている可能性がないとは言いきれない。したがって、今後も積極的な授業の改善に取り組むべきであろう。今回は、具体的な対策を提示することはできないが、今後の動向を注視したい項目である。

3-3-3. 教室以外で日本語を使う機会がない

5の「教室以外で日本語を使う機会がない」と答えた学生は、14名と2番目に多いが、他の設問との相関をみても、顕著な傾向はみられない。例えば、アルバイトに関してみると14名のうち8名がしており、6名がしていないと答えているといった具合である。

アルバイトをしている8名に絞ってアルバイト内容（複数回答可）をみると、「1. 居酒屋、レストランなど」とだけ答えた学生が3名、「2. スーパー、コンビニなど」と答えた学生は2名⁹、「4. 工場」とだけ答えた学生が2名、「5. 倉庫（整理・仕分け）」とだけ答えた学生が1名となっている。また、アルバイト内容の選択肢のうち、仕事中に日本語を使用する頻度が高いものは1、2、6、8で使用頻度が低いものは3、4、5、7であると考えられる。この日本語の使用頻度を基準にしてみると、高頻度のものを選択した学生は5名、低頻度のものを選択した学生は3名となる。つまり、前者5名は使用

9 この2名のうち1名は「4. 工場」と「7. ホテルの清掃やベッドメイキング」、もう1名は「4. 工場」と「8. 翻訳・通訳」も掛け持ちしている。

頻度が高いにもかかわらず、教室以外で日本語を使う機会がないと答えているのである。

以上のことから、アルバイトをしていない学生（6名）やアルバイトはしているが日本語の使用頻度が低い学生（3名）は無論だが、アルバイトで日本語を使う機会が多い学生（5名）も現状に満足していないと考えられる。また、日本滞在期間が2年以上の学生も多く含まれていることから、これまで自力で日本語を使用する機会を創出しようとしたが、結果として創出できなかったとも推測できる。今後、当科に入学する学生もこのような状況下に置かれる学生は少なからず存在するものと考えられるため、授業の内容をより実践的なものにし、授業時間を使って教員以外の日本人と会話や討論ができるようなカリキュラムを構成しなくてはならないだろう。

3-4. 日本語の「授業がつまらない」

前項に引き続き、Q26 に関してであるが、「2. 授業がつまらない」と答えた学生が1名いた（図1）。この選択肢を選んだ場合、Q27 と Q28 でそれぞれ、つまらない科目、つまらない理由を答えさせる形式となっている。そして、この学生の選択をみると、科目は「文法」を選んでおり、つまらない理由は「その他：クラスメートがちゃんと参加しない」としている。なお、この学生は U2 クラスに所属しており、U2 クラスの学生が授業に「ちゃんと参加しない」ということになる。また、科目の選択は1科目のみとなっているため、「クラスメートがちゃんと参加しない」科目が文法のみであるとは断定できないが、ここでは、いくつかの科目のなかで U2 のクラスメートが最も授業に「ちゃんと参加しない」科目が文法であるとしよう。文法を教える際は、基本的に文型の導入から始まり、練習・活用などを経るがこの過程で他の学生が「ちゃんと参加しない」状況が生じているのであろう。そして、これらの過程のどの段階でこの事象が生じていても文法の定着が難しくなってしまう。したがって、このような状況が生じているのであれば、早急に改善する必要がある。一方で、この U2 クラスは、ベトナム国籍の学生がクラスの半数以上を占めている。そのため、授業中にベトナム語が飛び交うことが多く、授業態度が良いとはいえない学生も多い。また、教員によって態度を変える学生もいる¹⁰ ことから、指導が難しいという面もある。これにより、上記の状況を生じさせないための効果的な方策をとれていない。したがって、今後、上記の事象を生じさせない方策について一層の議論と検討が必要である。

10 2017 年度後期より、U2 クラスでは授業態度評価表を教室に貼り、毎回の授業で担当教員が学生毎に態度が良ければ青のシールを、悪ければ赤のシールを貼ることにした。その結果、教員によって態度を変えていると推測される学生が一部いた。

3-5. 希望進路にむけた準備等における主体性

ここでは、学生らの進路の決定や準備に関して考察する。進路に関する設問は日本へ留学する段階として Q3（日本を選んだ理由）¹¹、当科入学前の Q8（別科を知ったきっかけ）、そして現在の Q38（進路の準備をどうするか）という 3 つがあり、時期別にみることができる。まず、これらの設問をそれぞれ主体的か受身的かという視点で整理してみよう。

Q3 で主体的に日本を選んでいると推測される選択肢は、「1. 日本の専門学校や大学などの教育、専門に興味があったため」、「2. 日本と関係がある仕事をしたかったため」、「3. 日本語を勉強したかったため」、「4. 日本文化や日本社会に興味があって、日本で生活したかったため」、「8. たくさんアルバイトができると思ったため」が挙げられよう（図 2）。その一方で、受身的に日本を選んだと推測される選択肢は「5. 自分の国から近いため」、「6. 国の友だち、知り合い、家族などに勧められたため」、「7. 日本に家族や、友だちや、知り合いなどがいるため」が考えられる。これらを比較すると、主体的なものが選択された数は 97 で、受身的なものが選択された数は 14 となっており、圧倒的に前者が多いことがわかる¹²。すなわち、この時期の学生らは主体的に進路を決定しているといえる。

Q8 で主体的に当科を知ったと考えられる選択肢は、「1. インターネットなどを使って自分で見つけた」のみでこれを選択したのは 2 名だけである。また、受身的な選択肢のうち「3. 日本語学校や、専門学校の先生に聞いた」を選んだ学生が最も多く、16 名

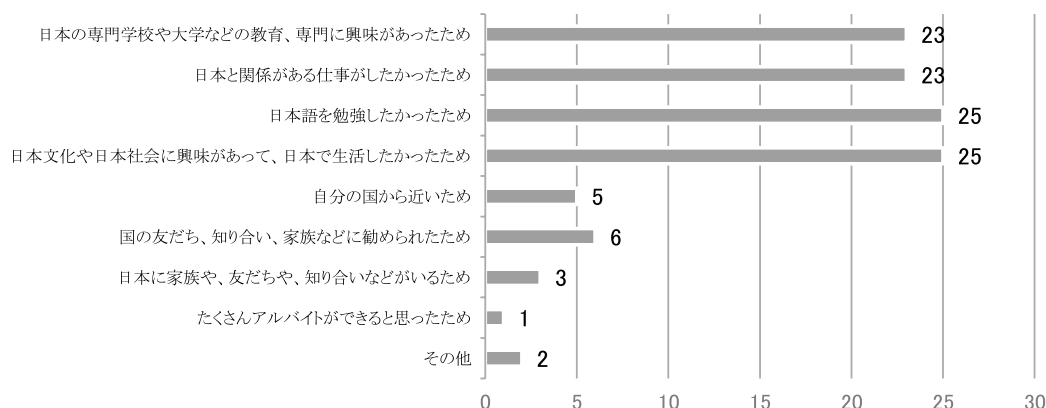


図 2 Q3. どうして日本を選びましたか

11 複数回答可

12 なお、回答者全員が選択肢 1～4 のうちいずれかを選択している。つまり全員が主体的であったといえる。

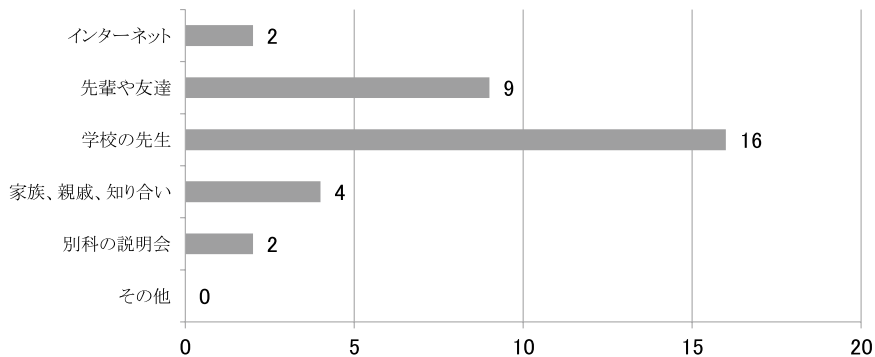


図3 Q8. 留学ビザまたは家族ビザで日本に来たあと、どうやって一番最初に城西大学別科を知りましたか

である（図3）。このように当科入学の前段階では、独力で情報収集をおこなった学生は非常に少ないと考えられる。

そして、Q38で現在、主体的に準備をしているといえる選択肢は、「1.自分ひとりでする」で、それ以外の選択肢は受身的なものである（図4）。内訳をみると主体的な学生は9名、受身的な学生は40名と圧倒的に受身的な学生が多い。したがって、現在の進路を決めるうえで受身的になっている学生が非常に多いようである。

以上のようにQ3では主体的な学生が、Q8、Q38では受身的な学生が多数派となっている。このことから、日本留学前は主体的であった学生が日本留学後には受身的へと変わってしまったといえるだろう。ただし、この3つの設問は意思決定プロセスにおいて、それぞれ、Q3が選択活動、Q8は、インテリジェンス、Q38は設計といえる。つまり意思決定の段階が違うのである。そのため、それぞれの時期で同様の意思決定プロセスを辿っている可能性があることに注意したい。例えば、日本へ留学する際の意思決定では、Q3のような主体的な選択活動がおこなわれたが、Q8のようなインテリジェンス活動の段階では受身的であったのかもしれない。また、Q38のような設計段階でも受身的となり、総合的にみると受身的であったといえるかもしれない。つまり、必ずしも日本留学

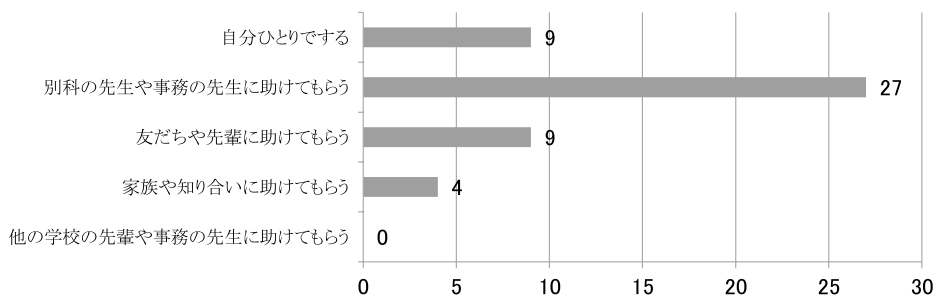


図4 Q38. 進学や就職のための情報集めや準備は自分ひとりですますか

前の学生が主体的であったとは断言できないのである。

とまれ、現在、次の進路に関して受身的になっている学生が非常に多いというのは事実である。彼ら自身の諸々の事情で主体性が低下していることが原因であるのか、当科の教職員のサポートが手厚いことが原因であるのかは定かではないが、学生の将来を考えれば、主体性を向上させるべく対策を練る必要があることは間違いないだろう。例えば、インターネット上での検索リテラシーを身につけさせるための指導を徹底することや、学生らが資料を手軽に閲覧できる環境を整えることで、インテリジェンス活動や設計の段階で受身的になる学生が減少するだろう。

3-6. 学生の希望進路

前項では学生の進路に向けた準備等に対する意識について考察した。では、彼らの進路の希望はどうなっているのだろうか。ここでは学生の希望進路（Q35）についてみてみよう（図5）。

まず、最も多かったのが「4. 城西大学の短期大学に進学する」で9名であった。次いで多かったのが、「1. まだわからない」と「3. 日本の専門学校に進学する」の7名であった。「1. まだわからない」とした学生は、来日したばかりの日本語専修課程の学生¹³が選択するものと思われたが、実際には全員が日本文化専修課程の学生であった。

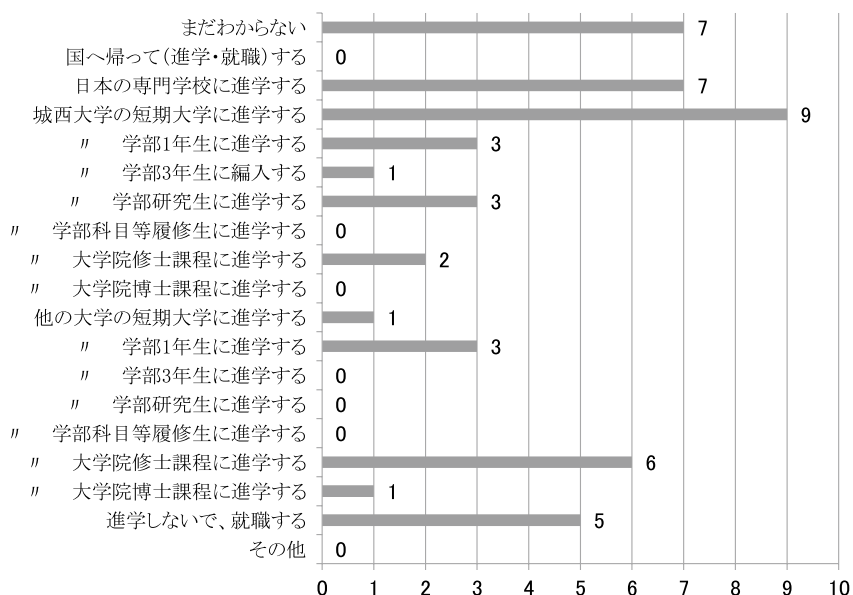


図5 Q35. 別科を卒業したあとの予定は何ですか

13 日本語専修課程の学生は卒業後、日本文化専修課程にそのまま入学することができるため進路を決めるうえでの時間的な余裕がある。

日本文化専修課程は入学して1年後には次の進路を必ず決めなければならないが、10月の時点でまだ決まっていない学生が7名もいたことになる。彼らが最終的にどのような結論を出すのかは不明だが、10月以降に専門学校を希望しても募集が終了している可能性が非常に高く、残された選択肢が非常に狭くなってしまう。また、進路が決まっていない学生がどのように準備を進めるつもりであるのか(Q38)をみると、「3. 友達や先輩に助けてもらう」や「4. 家族や知り合いに助けてもらう」を選択しており、「2. 別科の先生や事務の先生に助けてもらう」とした学生がいないことから、教職員側が待ちかまえていても彼らの行動を把握しづらいということになる。したがって、進路に向けて何ら行動をしていないと目される学生がいれば、教職員側が積極的に介入していく必要があるだろう。その際には前項で挙げたように学生の主体性を尊重しつつ検索リテラシー等の向上を図ることが望ましい。

4. おわりに

ここまで、別科の学生に対するアンケート調査をもとに分析や考察をしてきたが、改めて整理しよう。まず、今回のアンケートでは、学生の学習面・生活面での素地や現状、希望進路等に関する設問によりその実態を明らかにしようとした。その結果、ある程度の傾向がみられたことから特に、①最終学歴と日本語以外の科目との相関、②自宅での学習時間に関して、③日本語学習における悩みに関して、④日本語の「授業がつまらない」との回答、⑤希望進路にむけた準備等における主体性、⑥学生の希望進路について分析・考察した。その結果、①では、特にアカデミックな科目の多い日本文化専修課程を中心にその科目の意義や学習方法についてより深く明示する必要があることが明らかになった。②では、学生の意識とカリキュラムとの乖離が生じているため、今後早急に対策を打ち出す必要があることがわかった。③では、学生のレベルに合った日本語の授業を行うために各クラスの編成方法やカリキュラム、あるいはその両方を再検討する必要があると、併せて、勉強をしても日本語が上達しない学生に対する対策として積極的な授業の改善に取り組まなくてはならないことが明らかになった。カリキュラムや授業を改善する際には、学生の日本語使用機会を創出することを考慮しなければならない。④では、学生が授業に参加しない事態を生じさせない対策が必要であり、今後より一層の議論を深める必要があることがわかった。⑤では、学生の進路に関する意思決定プロセスを考慮し、学生の主体性を高めるための検索リテラシー等の教育が必要であることがわかった。最後に、⑥では、希望進路を明らかにしない学生に対して教職員側が積極的に関与していく必要があることがわかった。

今後の別科の方針としては、上記のような課題をふまえて、まず、学生の希望進路を考慮したクラス分けを実施する。併せて、学生に対し、日本文化専修課程の科目のうち、

特に日本文化特殊講義の意義について、募集の段階やオリエンテーション等の機会に今まで以上に丁寧に説明する。さらに、授業改善の一環として学生の授業への積極的な参加や主体的な行動を促す方策を、FD研修を通して見出したい。また、長期的な目標として今以上に学生の質の向上を図っていくこととする。

最後に本稿の限界として、各設問の選択肢を数値化し難いものにしたため、計量分析がうまく行えなかった点を明記しておきたい。これにより、本稿では学生の傾向を明確に提示することができなかった。また、反省点として、事前に仮説等を立てたうえで調査を実施できなかったため、アンケート自体の狙いがやや明確でなかったことについても挙げておこう。これらを踏まえ次年度では、より効果的な調査を実施し、本稿で明らかにできなかった点についても論じたいと考えている。

参考文献

- 日本学生支援機構（2016）『平成 27 年度 私費外国人留学生生活実態調査』
圓岡偉男、黒澤周生（2011）「意思決定の基礎構造に関する一考察」『東京情報大学研究論集』
Vol. 15 No. 1 pp. 49-61
- 小宮修太郎、長能宏子、平形裕紀子（1998）「日本人の会話とその教育に関する留学生の意識調査——中国人、韓国人、台湾人の回答結果を中心に——」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』13号 pp. 129-162
- 小宮修太郎、長能宏子、平形裕紀子（2001）「日本人の話し方について留学生が持つ印象とその要因——中国人・韓国人・台湾人留学生の比較——」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』16号 pp. 47-82
- 渡辺淳一（2005）「山口大学留学生の生活実態調査：現状の分析と課題」『大学教育』第2号 pp. 67-84

【参考資料】

ねんあきがつき べっ か せい せいかつじつたい いしきちょう き 2017年秋学期 別科生の生活実態・意識調査 アンケート用紙

このアンケートは、先生たちが、今別科で勉強しているみなさんのことをよく知って、みなさんと、これから別科に入るみなさんのために、いい授業をしたり、いい環境を作ったり、いい進路指導をするために使います。

アンケートには、名前を書かなくてもいいです。アンケートでわかったことは、別科2017年度の『年報』で別科の先生や別科以外の先生たちにも知らせますが、みなさんのプライバシー(privacy)は守りますのでご協力をお願いします。

●アンケートの答え方

- 質問の答えを選んで、番号に○をつけてください。
- ・「その他」を選んだ人は、()の中に、あなたの答えを書いてください。
- ()がない場合は書かなくてもいいです。

—アンケート (Questionnaire) —

●あなたのことについて教えてください。

Q1: 性別(gender)は、どちらですか。

1. 男 (Male) 2. 女 (Female)

Q2: 出身国はどこですか。

1. 中国 2. ベトナム 3. その他の国

●日本に留学する前のことについて教えてください。

Q3: どうして日本を選びましたか。

* 3つまで選んでもいいです。

- 日本の専門学校や大学などの教育、専門に興味があったため
- 日本と関係がある仕事があったため
- 日本語を勉強したかったため
- 日本文化や日本社会に興味があって、日本で生活したかったため
- 自分の国から近いため
- 国の友だち、知り合い、家族などに勧められたため

7. 日本に家族や、友だちや、知り合いなどがいるため
8. たくさんアルバイトができると思ったため
9. その他 ()

Q4: あなたが、自分の国で最後に卒業した学校は何ですか。

1. 高校
2. 専門学校
3. 短期大学
4. 大学 (3年)
5. 大学 (4年)
6. 大学院
7. その他 ()

● 留学ビザまたは家族ビザで日本に来てから、城西大学別科に入学するまでのことについて教えてください。

Q5: 留学ビザまたは家族ビザで日本に来てから、何年になりますか。

1. 1年未満
2. 1年～2年未満
3. 2年～3年未満
4. 3年以上

Q6: 留学ビザまたは家族ビザで日本に来たあと、城西大学別科にすぐ入学しましたか。

1. はい (Q9へ進んでください)
2. いいえ (Q7へ進んでください)

Q7: 留学ビザまたは家族ビザで日本に来たあと、城西大学別科に入学する前は何をしていましたか。

* 一番最近のものを1つだけ選んでください。

1. 日本語学校で勉強していた
2. 学部研究生や、科目等履修生として勉強していた
3. 専門学校で勉強していた
4. 家族と一緒にいた
5. その他 ()

Q8: 留学ビザまたは家族ビザで日本に来たあと、どうやって一番最初に城西大学別科を知りましたか。

1. インターネットなどを使って自分で見つけた
2. 先輩や友だちに聞いた
3. 日本語学校や、専門学校の先生に聞いた
4. 家族、親戚、知り合いから聞いた
5. 城西大学別科の説明会を聞いた
6. その他 ()

Q9: どうして城西大学別科を選びましたか。* 3つまで選んでもいいです。

1. 他の学校より授業料が安いから
2. 授業の内容がよさそうだから
3. 大きい大学だから
4. きれいな大学だから
5. 城西大学の学部や大学院や短大に進学したいから
6. その他 ()

●今の勉強や、生活について教えてください。

Q10: 今までどのぐらい日本語を勉強しましたか。

1. 6か月未満
2. 6カ月～1年未満
3. 1年～1年6か月未満
4. 1年6か月～2年未満
5. 2年～2年6か月未満
6. 2年6か月～3年未満
7. 3年以上

Q11: 今、別科のどちらの課程で勉強していますか。

1. 日本語専修課程(Gクラス)
2. 日本文化専修課程(Uクラス)

Q12: 日本語能力に関する資格(日本語能力試験 JLPT)を持っていますか。

1. N1
2. N2
3. N3
4. N4
5. N5
6. 持っていない

Q13: 次の進学や就職のために日本語能力試験 (JLPT) に合格する必要がありますか。

*必要がある人は、合格しなければならないレベルに○をつけてください。

1. はい、必要あります [N1 N2 N3]
2. いいえ、必要ありません

Q14: 日本留学試験 (EJU)を受験したことがありますか。

1. はい、あります (Q15へ進んでください)
2. いいえ、ありません (Q16へ進んでください)

Q15: 日本留学試験 (EJU)の日本語科目の得点は何点でしたか。

1. 100～150点
2. 151～200点
3. 201点～250点
4. 251点～300点
5. 301点以上

Q16: 次の進学のために日本留学試験 (EJU)を受験する必要がありますか。

*必要がある人は、必要な得点に○をつけてください。

1. はい、必要あります [151～200点 201～250点 251～300点 300点以上]
2. いいえ、必要ありません

Q17: 授業以外で1週間に何時間ぐらい日本語の勉強をしていますか。

1. 7時間未満
2. 7～14時間未満
3. 14～21時間未満
4. 21～28時間未満
5. 28～35時間未満
6. 35時間以上

Q18: 授業以外で1週間に何時間ぐらい日本語以外の科目の勉強をしていますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 7時間未満 | 2. 7～14時間未満 | 3. 14～21時間未満 |
| 4. 21～28時間未満 | 5. 28～35時間未満 | 6. 35時間以上 |

Q19: 今住んでいる家から、城西大学まで(片道)どのくらいかかりますか。

- | | | |
|-----------------|--------------|-----------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分～1時間未満 | 3. 1時間～1時間30分未満 |
| 4. 1時間30分～2時間未満 | 5. 2時間以上 | |

Q20: アルバイトをしていますか。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. はい (Q21へ進んでください) | 2. いいえ (Q24へ進んでください) |
|---------------------|----------------------|

Q21: 今、どんなアルバイトをしていますか。

*3つまで選んでもいいです。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 居酒屋、レストランなど | 2. スーパー、コンビニなど |
| 3. 引越し | 4. 工場 |
| 5. 倉庫(整理・仕分け) | 6. ホテルの受付 |
| 7. ホテルの清掃やベッドメイキング | 8. 翻訳・通訳 |
| 9. その他 () | |

Q22: 今、1週間に何時間アルバイトをしていますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 5時間未満 | 2. 5～10時間未満 | 3. 10～15時間未満 |
| 4. 15～20時間未満 | 5. 20～25時間未満 | 6. 25時間以上 |

Q23: なぜアルバイトをしていますか。

*3つまで選んでもいいです

- | |
|------------------------------|
| 1. 生活費(家賃、食費、電気、水道、保険料など)のため |
| 2. 学費(学校に払うお金)のため |
| 3. 好きな物を買ったり、好きなことをするため |
| 4. 日本語の練習のため |
| 5. 国の家族へ送るため |
| 6. 日本へ来るとき借りたお金を返すため |
| 7. その他 () |

Q24: 1か月の生活費はいくらぐらいですか。

- | | | |
|--------------|---------------------|---------------------|
| 1. 10,000円未満 | 2. 10,000～30,000円未満 | 3. 30,000～50,000円未満 |
|--------------|---------------------|---------------------|

4. 50,000～70,000円未満 5. 70,000～90,000円未満 6. 90,000～100,000円未満
7. 100,000円以上

Q25: 毎晩、家で寝る時間はだいたい何時間ぐらいですか。

1. 3時間未満 2. 3時間～4時間未満 3. 4時間～5時間未満
4. 5時間～6時間未満 5. 6時間～7時間未満 6. 7時間～8時間未満
7. 8時間以上

Q26: 今、日本語の勉強で困っていることがありますか。

*3つまで選んでもいいです。

1. 授業がむずかしくてわからない 2. 授業がつまらない
3. 勉強してもじょうずにならない 4. 先生や事務の先生と日本語で話ができない
5. 教室以外で日本語を使う機会がない 6. 宿題が多すぎる
7. 宿題がむずかしくてわからない 8. 家で勉強する時間がない
9. 勉強のしかたがわからない 10. 日本語の勉強で困っていることはない
11. その他 ()

Q27: Q26で、1を選んだ人だけ答えてください。

日本語の授業で、何がむずかしいですか。*ひとつだけ選んでください。

1. 漢字 2. 語彙(ことば) 3. 文法 4. 読解 5. 聴解
6. 会話 7. 作文 8. その他 ()

Q28: Q26で、1を選んだ人だけ答えてください。

どうして日本語の授業がむずかしいですか。*ひとつだけ選んでください。

1. 先生の話すスピードが速いため 2. 先生の説明のことばがむずかしいため
3. 先生の声が小さい・聞きにくい 4. 教科書などがむずかしいため
5. 授業のスピードが速いため 6. 自分が予習や復習をしていないため
7. その他 ()

Q29: Q26で、2を選んだ人だけ答えてください。

日本語の授業で、何がつまらないですか。*ひとつだけ選んでください。

1. 漢字 2. 語彙(ことば) 3. 文法 4. 読解 5. 聴解
6. 会話 7. 作文 8. その他 ()

Q30: Q26で、2を選んだ人だけ答えてください。

どうして日本語の授業がつまらないですか。*ひとつだけ選んでください。

1. 教科書などがおもしろくない 2. 先生がちゃんと質問にこたえてくれない

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| 3. 先生が親切じゃない | 4. 説明が多すぎる |
| 5. 先生の話が長すぎる | 6. 授業が単調 (Monotony / 単調 / Đơn điệu) |
| 7. その他 () | |

Q31: 今、日本語以外の科目の勉強で困っていることがありますか。

* 3つまで選んでもいいです。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 授業がむずかしくてわからない | 2. 授業がつまらない |
| 3. 宿題が多すぎる | 4. 宿題がむずかしくてわからない |
| 5. 家で勉強をする時間がない | 6. 勉強のしかたがわからない |
| 7. 日本語以外の科目の勉強で困っていることはない | |
| 8. その他 () | |

Q32: Q31で、1を選んだ人だけ教えてください。

どうして日本語以外の科目の授業がむずかしいですか。*ひとつだけ選んでください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 先生の話すスピードが速いため | 2. 先生の説明のことがむずかしいため |
| 3. 先生の声が小さい・聞きにくい | 4. 教科書などがむずかしいため |
| 5. 授業のスピードが速いため | 6. 自分が予習や復習をしていないため |
| 7. その他 () | |

Q33: Q31で、2を選んだ人だけ教えてください。

どうして日本語以外の科目の授業がつまらないですか。*ひとつだけ選んでください。

- | | |
|------------------|-------------------------------------|
| 1. 教科書などがおもしろくない | 2. 先生がちゃんと質問にこたえてくれない |
| 3. 先生が親切じゃない | 4. 説明が多すぎる |
| 5. 先生の話が長すぎる | 6. 授業が単調 (Monotony / 単調 / Đơn điệu) |
| 7. その他 () | |

Q34: 今、生活で困っていることがありますか。*3つまで選んでもいいです。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 生活費が足りない | 2. 生活の中で使う日本語がわからない |
| 3. 住んでいる家や部屋に問題がある | 4. アルバイト先に問題がある |
| 5. 体の調子が悪い | 6. 保険証を持っていないため、病院へ行けない |
| 7. 困ったとき、相談できる人がいない | 8. 友だちができない |
| 9. 生活で困っていることはない | |
| 10. その他 () | |

●別科を卒業したあとの予定について教えてください。

Q35: 別科を卒業したあとの予定は何ですか。

Q39: どうして日本の学校に進学したいのですか。 *1番の理由を選んでください。

1. 授業料が安い
2. 入学試験が簡単なため
3. 勉強したい専門があるため
4. 卒業したあと、日本で就職したいため
5. 卒業したあと、自分の国で就職しやすい
6. 親が希望しているため
7. 日本での生活を長く続けたい
8. その他 ()

●日本で就職したい人だけ教えてください。

Q40: どうして日本で就職したいのですか。 *1番の理由を選んでください。

1. 自分の国より収入がいい
2. 自分の国よりいい仕事がある
3. 家族が希望している
4. 自分がしたい仕事ができる
5. 日本での生活を長く続けたい
6. その他 ()

●城西大学別科の授業、教室環境、進路指導などについて、希望があったら自由に書いてください。

Q41: 授業について希望があったら自由に書いてください。

<日本語の授業について>

<日本語以外の科目の授業について>

Q42: 教室の環境について希望があったら自由に書いてください。

Q43: 進路指導について希望があったら自由に書いてください。

Q44：その他、^た希望^{きぼう}があったら何でも自由^{なんじゆう}に書いてください。

これでおわりです。ご協力^{きょうりょく}ありがとうございました。